北海道
日伊協会会報

VOL. 57　2017年3月
発行　北海道日伊協会
事務局　〒060-0051 札幌市中央区
南１東２　ブライトサッポロ内
電話(011)241-0345 FAX (011)241-0567

訪伊団と合同で新年会

親善交流を報告　ミサ曲をサプライズ披露

日伊国交 150 周年親善訪問団の報告会を兼ねた北海道日伊協会の 2017 年新年会は、1 月 24 日(火)夜、札幌丸井今井大通館 10 階「メイン-ディッシュ」で開かれました。

訪問団メンバーがサン・マルコ寺院で演奏したミサ曲を披露

訪問団は、三部会長を団長とする合唱団コール・トラウベの 17 人、ソリスト 7 人、ピアニスト 1 人と同行者合わせて 39 人で、昨年 9 月 9 日から 16 日までの 8 日間の日程でイタリアを訪問、ブッセートのヴェルディ劇場で日伊友好親善コンサートを開いたほか、ヴェネツィアのサン・マルコ寺院のミサで歌い、ヴェルディが作った音楽家の老人ホーム「カサ・ヴェルディ」で慰問演奏を行い、交流を深めてきました。

三部会長は挨拶で、「ヴェルディ劇場では市長さんがブラヴィ！と叫んで舞台に駆け上がってきた。カサ・ヴェルディでは、いろんな慰問があったが、みんながこんなに喜んで聴いたのは初めて、と言われた。こんなうれしいことはない」など、3 つの演奏につい丁寧に報告(15 ページ「音楽！人生の旅」参照)。

引き続きワインを傾けながら、菅原明子理事によるスライド画像付きのエピソード紹介を聞き、ここで、ソリストと合唱メンバーが三部会長の指揮で、サン・マルコ寺院で歌ったモーツアルト作曲のミサ曲「アヴェ・ヴェルム・コルプス」を披露するサプライズがあり、一同見事な歌声に聞き惚れました。

初めて函館市から出席した若槻康介さんから、クラシックカーの Trofeo Tazio Nuvolari が 7 月 15 日に函館をスタートすることが紹介されました(16 ページ参照)。

訪伊団のメンバーも加わり賑やかに記念撮影

追悼　山崎達郎名誉会員　幸正　和典

またお一人、北海道日伊協会の重鎮が旅立たれました。寂しい限りです。事務局を受け持ったばかりの私は、山崎さんにお会いしても控えめな叔父様くらいの印象でした。ところが、お話しをお聞きしていく内に、その重鎮ぶりのギャップに驚かされるばかりでした。有名な老舗「BAR やまざき」のオーナーであり、人物の横顔を切り絵にする名手とは、最初の驚きでした。

BAR にも何度か訪れましたが、年代を感じさせる落ち着いた店内に、あの赤チェックベストを着られて接客されているカウンター越しの姿が思い出されます。

聞けば山崎さんは、日本が国際バーテンダー協会に加盟できた立役者のおひとりであり、1976年のイタリアで行われた同協会コンクールで準優勝され、その名を世界に知らしめたとのこと。

実はこのお話しの実感は、当協会三部会長等が長万部音楽祭を主催されていた折り、関係者で長万部町内にある BAR を訪れた時のこと、マスターは山崎さんの門下生だったとのことで、全国に山崎さんの門下生はおり、世界的にも有名なバーテンダーとのお話を聞いた時でした。そんな大きな存在なのに、あのいつも穏やかで威張ったところが無く、自慢話のひとつも聞いたことのない山崎さんでした。

当協会25周年祝賀会では、ステージ上で特製のカクテルを作って振る舞うと聞いてか、お弟子さんが駆けつけて下さり、その中のお一人に長万部のマスターもいらっしゃいました。当協会の会合にはよく出席下さっていましたが、晩年耳が不自由になり足も遠のく中、私が山崎さんの隣に座り、耳元で聞こえてくるお話しの説明をしていると、大変喜ばれて口数も多くなって頂けたことは、私も本当に嬉しく思いました。2014年の当協会40周年祝賀会では、永年功労の感謝状をお受けになり、私がインタビューさせていただきました。山崎さんは「私がこうしてあるのは、バーテンダーを通してイタリーと関わることができ、会員の皆様に支えられてきたからこそ」。どこまでも謙虚な山崎さんでした。その折りも隣は私の席。新しくした補聴器を見せ、祝賀会でのお話しを熱心に聞いていらっしゃいました。

駐日イタリア大使ジョルジご夫妻の切り絵も見事な手さばきで作られプレゼントされていました。ああ、今でも鮮明に思い出されます。それからはお会いできませんでした。大変残念です。心からご冥福をお祈り致します。

（監事　前事務局長）

山崎さんは、昨年11月4日、自宅で逝去されました。

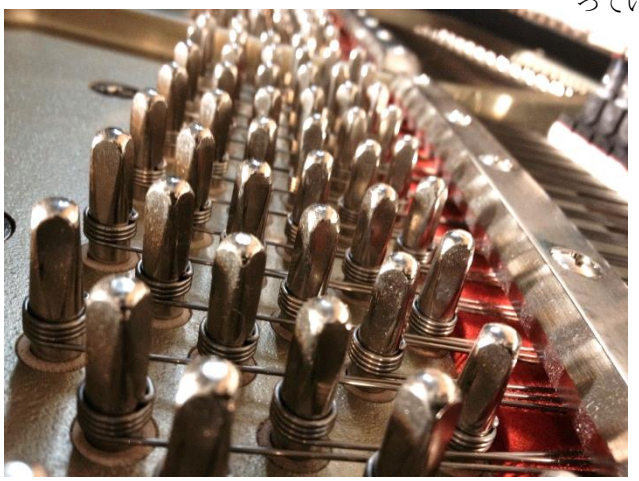
㊤創立 40 周年式典で小助川克顕さん（中）とともに名誉会員に推挙されスピーチ（右端は筆者）㊥似顔切り絵に喜ぶジョルジ駐日大使夫人リタさんと
㊦25 周年祝賀会でのバーテンダーぶり

調律師が読む『羊と鋼の森』

早坂　修一

調律師という仕事は、テレビ特番などで取り上げられる以外、あまり表に出ることはありません。ところが 2016 年春、調律師を目指す青年の姿を描いた宮下奈都さんの小説『羊と鋼の森』が本屋大賞に選ばれ、珍しく調律師が話題となりました。仕事先で感想を求められるケースも増え、一読させていただきました。

現場で調律師は、感性や感覚をフルに使って作業を進めます。鍵盤が 10mm動くとハンマーは 46mm動き、弦の何ミリを打弦するあるいは 12 音階を作り 88 ある鍵盤に均等に割り振るなどピアノは実に物理的、数学的に研究され設計されており、鍵盤の高さ、深さ、弦とハンマーの距離、音程、音色。技術者はそれらを正確にそろえる、という作業を行います。



本文を読み進めていきますと、技術面では多少疑問符が付く部分もありましたが、専門性の強い調律師の世界がうまく表現されています。

著者は何人かの調律師から話を聞いて、この本を書いたそうですが、ピアノを森にたとえ、素材や、ピアノという出口のない森に迷い込んだのでは？など、生き様を表現するなど、興味深く読ませていただきました。

この本のタイトルは、ピアノの素材をあらわしています。

羊＝ピアノのハンマーやダンパーはフェルトを素材として作られている（**写真上**）ことから羊にたとえられています。

鋼の森=弦やフレーム関係のことです（**写真下**）。

ピアノの歴史について、少し振り返ってみます。今からおよそ 300 年前にイタリア人である、クリストフォリにより発明されたピアノは改良を加えられ、ベートーベン時代から本格的に使用される様になりました。

ちなみに、チェンバロとピアノの世代交代はこのタイミングといわれています。

当時のピアノは、A=415-から 420HZ 調律され、現代より半音程度低いものでした。また、現代のものとは使用された素材が異なり、ハンマーはコルクに動物の皮を巻いた程度のもの、金属フレームはまだなく、本体は木枠で組まれ、音量も乏しく外観はほぼチェンバロと同じで、まだ羊と鋼の森ではありませんでした。

ベート-ベンがソナタ第 29 番　ハンマークラビアを発表したとき、当時の楽器での演奏は困難といわれていました。

「時代とともに楽器はさらに進化する、楽曲の解釈も変わる。世の人間は 50 年もすればこの楽曲を弾きこなすであろう」とコメントを残しています。

ピアノが大きく変わっていくことを知っていたかのように。

19 世紀半ば、ピアノに金属フレームが採用されるようになり、真鍮や銅、鉄製の細い弦から、高炭素鋼を採用した太く強いスチール弦を高い張力で張ることが可能になりました。アクションも改良を加えられピアノは、ここで現代と同じ、“羊と鋼の森“となり、飛躍的に性能を伸ばすことになります。

19 世紀半ばは、リストが活躍していました。彼の超絶技巧な演奏に、当時のピアノでは一回の公演で何本も弦が切れてしまうためピアノを 2、3 台準備するのが普通でしたが、この時代に現れたベーゼンドルファーはリストの演奏にも動じることがなかったことから一

躍有名になりました。

このように大作曲家の出現とともに、楽器も進化を続けました。

日本におきましては、20 世紀初頭、初代 YAMAHA 社長　山葉　寅楠が、数カ月間諸外国に視察の旅に出ます。

なんと設計図を持たずして、国産ピアノ第一号をつくりますが、まだ、パーツの大半は国産でまかなうことはできず、大半のものは輸入。国内でのピアノの普及はまだ先の話で、欧米諸国には 100 年以上の遅れをとっていました。

現在では、すべて国産部品でまかなうことが可能になり、楽器の性能もヨーロッパ諸国の楽器に肩を並べる水準に到達しました。

イタリア発の偉大な発明は、日本でも今や日常となりました。

急速にデジタル化が進む今日、偉大な発明から発した世界が、このように文学で表現され、人々の感性を震わせることは大変貴重な出来事であると思います。

子どもの頃、遠足の前日、楽しみで楽しみでなかなか寝付けませんでした。人が生きる原動力は、このワクワク感、躍動感にあると思います。

イタリアには、マルコポーロ、ミケランジェロ、コロンブス、ガリレオ、ヴィバルディ、パヴァロッティなど他にも多数、驚くほど多くの有名人が存在します。偉業を成し遂げるには、単に責任感、義務感だけでは難しいと思います。

明日、何が起きるのだろう？どんな出会いがあるのだろう？遠足を待ちわびる子どものような気持ちが、彼らを偉業に導いたのではないでしょうか？

我々日本人も鋭敏な感性を養い、これから過ごす日常が感性を震わせ、ワクワク感、躍動感に満ち溢れたものであることを願ってやみません。

（法人会員ブライトサッポロ、調律師）

フォルテピアノ

YAMHA 第 1 号ピアノ

グランドピアノのフレーム

注　初期の楽器は，英語ではピアノフォルテ（Pianoforte）、ドイツ語ではハンマーフリュー（Hammerflüge）、ハンマークラヴィーア（Hammerklavier）、イタリア語・フランス語ではフォルテピアノ（Fortepiano）と呼ばれ、19 世紀に完成形となった近代ピアノは、英語・フランス語はピアノ（Piano）、ドイツ語ではクラヴィア（Klavier）、イタリア語ではピアノフォルテ（Pianoforte）と呼ばれています。
現在は鉄骨入りのものをピアノ、木枠のものをフォルテピアノと区別して呼ばれることが多いです。

サローネ CINEMA　3月14日(火)に　　みべ音楽院　18時30分開幕

第30回カンヌ映画祭
パルムドール受賞作

「父 パードレ・パドローネ」

監督・脚本
パオロ&ヴィットリオ・タヴィアーニ

ミュージアム・クラシックカーが北海道を走る
Trofeo Tazio Nuvolari
今年は7月15日スタート

ミュージアムでしか見られないクラシックカーが実際に走る16th.+1 トロフェオ・タツィオ・ヌヴォラーリ・イン・北海道は、7月15日から3日間繰り広げられます。

一昨年の千歳市ゴール後の喜びのシーン

走るのは函館から道央・道東を一巡りしてゴールの千歳まで約800キロ。北海道はもちろん関東、関西など全国から30台前後が参加を表明、イタリアからも打診があったそう。アルファロメオ1750GS(1930年)、1920年台のフェラーリ、ブガッティの参加情報も。

主催のScuderia Tazio Nuvolari Asiaを代表して若槻康介さん(函館)は、『何十年も昔の車で、北海道の大自然をゆっくりとドライブし、その土地の味覚も味わうのはこの上ない楽しみ。参加者同士の親睦はもちろん地元の皆様との交流を図ります。交通安全を啓蒙する事も目的です』と語っています。

日程は次の通り。天候や道路状況により変更があります。

▽第1日　7月15日　函館→函館近郊周遊→ルスツ
▽第2日　　16日　ルスツ→支笏湖→苫小牧→占冠→十勝岳→富良野
▽第3日　　17日　富良野→美瑛→赤平→千歳

■　伊語検定 札幌受験は３５人

3月5日(日)は第44回「実用イタリア語検定」試験日でした(於かでる27)。

受験者は準2級・3級・4級・5級、あわせて35人。松浦茂・マリアンナ・チェスパ両理事と石田咲子会員が監督を担当しました。

■　ゴスペル・コンサート

ブライトサッポロ(法人会員)のコミュニティークワイアは3月18日(土)厚別区民センター区民ホールでスプリング・ゴスペルコンサートを開催します。開演14時。演奏曲目は「天使にラブソングを」ほか。区民センター特別事業でチケットは500円(小学生上)、定員200人。問い合わせ電話:011－894－1581

■　倉田教授のカンパネッラ紀行

倉田稔会員の「カラブリアの町々で―南イタリアー」。B5版、本文10頁。小樽商大言語センター刊。 2015年、大思想家カンパネッラの足跡を尋ねて、コゼンツァとスティロを夫人と廻った紀行録。ご希望の方は、事務局にご請求下さい。

イタリア南部一人旅の希望者には実用情報いっぱい。終始、努めて住民と接しようとする姿勢には脱帽。失敗談も披露、イタリア膝栗毛の趣も漂い、ユーモラスで、非アカデミック。お勧めです。(山田)

編集後記

日本最高齢のバーテンダー山崎達郎さんとお別れの日が来ました。今もあのカウンターに座れば、お会いできる気がします。きちんと居場所を持った素晴らしい先輩でした▼NHKBS1でドキュメンタリー「ヴィスコンティVS.フェリーニ」(**写真**)を見て、2人は「罵り合い、まるで戦争のような状態」でライバル意識を燃え立たせ、イタリア映画を頂点に押し上げたことを知りました。久々のサローネCINEMAは8回目。見たい作品がまだまだあります▼トランプ米大統領の発する一語一語に世界が踊らされる春。ホワイトハウスの人事も固まらない漂流状態は気になりますが、そこまで来た北国の春を楽しみましょう(金子)